『絆』を確かめ合う『出会いの場』

Vol.31

東京旭川会 会報 なごやかまど

第31号：平成23年（2011）2月18日発行
発　行：東京旭川会　〒121-0063
東京都足立区東保木間2-5-20
東京旭川会事務局（朝比奈康博）
TEL／FAX：03-3885-5300
編　集：東京旭川会広報グループ

＊本年度第35回の総会・懇親会は、10月22日(土)午後6時からです。ご予定ください。8月に改めてご案内いたします。

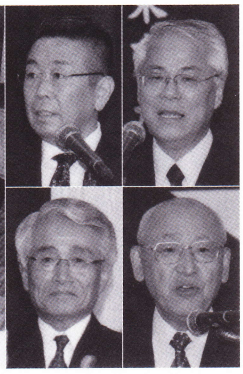
第34回東京旭川会総会・懇親会のご報告

2010年10月15日（金）「第34回東京旭川会総会・懇親会」が西新宿のハイアット・リージェンシー東京で開催されました。

【総会】 午後六時、司会を務める加藤桂子副会長の開会の挨拶後、横田茂副会長が議長となり、議案審議に入りました。「平成二十一年度事業報告並びに決算報告」（第一号議案）、「平成二十二年度事業計画並びに予算案」、「会則一部改定」（第四号議案）についての報告、確認がありました。次に「会長・監事の選任」（第三号議案）に入り、原公朗会長代行が、大きな拍手の下、満場一致にて、正式に東京旭川会第四代目の会長に就任いたしました。議事は無事に終了しました。

【懇親会】 懇親会は、松原愛幹事の司会で始まり、大きな拍手の中で、来賓入場とご紹介がありました。続いて、原公朗新会長が力強く挨拶。（その内容は、原新会長からのメッセージとして、下記にまとめましたのでご覧ください）また、原会長から幹事全員が壇上に呼ばれ、このメンバーで東京旭川会をよりよい会にしてまいりますと壇上から挨拶がありました。その後、旭川市を代表して、西川市長の代理として高瀬善朗副市長からご挨拶をいただきました。新谷龍一郎旭川商工会議所会頭の音頭で、会場に集まった全ての参加者は、旭川のますますの発展を願い、杯を上げました。

中央テーブルには、旬の食材を活かした豪華な料理が並び、恒例の旭川ラーメン屋台コーナーや郷土物産即売会は昨年同様の大人気。お酒を飲み、旭川市から提供のじゃがいもやかぼちゃの料理にも舌鼓を打ちながら自然と会話もはずみます。ところどころに配置されたテーブルの周りには自然に人が集まり、紹介し合ったり、市の関係者と話がはずんだり、と交流が進みます。



その後、「在京の高校同窓会紹介」が始まり、河原惟臣副会長が出身校である旭川北高のこれまでの東京における活動状況を報告した後、壇上に上がった20数名の同窓生の方々が、声をそろえて校歌を歌い、会場から拍手を浴びていました。

その後、三井尚美幹事の掛け声で、毎年恒例の空くじなしの大抽選会が始まり、今年も抽選番号が発表されるたびに、歓声が聞こえ、笑顔、拍手がわき起こりました。

午後8時、河原惟臣副会長の発声による中締めで終宴となりました。参加者は、旭川市からのパンフレットも入った土産袋を手に、また翌年の再会を約し、家路につきました。

原公朗 新会長からのメッセージ～新生する東京旭川会

東京旭川会は、旭川市にゆかりのある人達の懇親の会として33年前有志の先輩によって発足しました。会則の冒頭に、会員相互の親睦と旭川市への貢献が謳われています。この理念を継承し、さらに発展、進化させることが次代を担う私達会員に課せられた使命と考えています。

旭川市は人口35万人を超え中核市として成長を続けてきました。国家あるいは企業でも個の単位の時代は過ぎ、相互依存の度合いは、大きくなっています。旭川市のみに拘ることなく郊外を含めた『旭川圏』として捉え、会の考え方、活動の範囲を広げるべきと考えます。

人と人の出会いは、個人の意志のみで結ばれることは少なく天命とすら感じることがあります。旭川会での出会いを貴重な機縁として親睦を深めお互いの『絆』を確かめ合う『出会いの場』となればと願っています。

この出会いが、故郷に想いを寄せる未知の人たちにも伝わり、また次の見知らぬ人たちへと波紋のように広がって行き、東京旭川会が、大勢の人々の集う『広がる輪』に成長することを理想としています。

会の運営に当たる幹事はそれぞれに熱意を持って参加しています。幹事は常に会員皆様の意志を反映してゆかねばなりません。東京旭川会は会員皆様の会です。『会員の声』を機会ある毎にお聞かせ下さい。皆様の力を結集して、開かれた、希望に満ちた東京旭川会に向かって進もうではありませんか。

東京旭川会会長　原公朗

↑幹事、全員集合！　東京旭川会を盛り上げます。

旭川市の観光を考える

「東京旭川会」の懇談会における今回のテーマは、「旭川市の観光を考える」というものです。旭川市から高瀬副市長をはじめ経済観光部長、主査、市議会から副議長、民間からは（社）旭川観光協会会長が出席。一方、東京側は「旭川観光大使」12名が集まるという今までにないメンバー構成で、10月15日、午後3時から5時30分までの2時間半にわたり、実に真面目で、率直な話し合いを持つことができました。

なぜこのようなテーマをこのような形で行ったかと申し上げますと、「旭山動物園」は、観光資源として、旭川市に貢献しているのは確かだが、今のうちに＋α、あるいはNEXTの手を打っておかないと先々大変心配だという意見を持つ人が東京に多い。そういう中で、原会長が嶋村輝郎氏（元・ニコン社長）から、そういう大事なテーマこそ「東京旭川会」の中で、きちんと話し合うべき内容だとアドバイスされたことから懇談会の準備は始まりました。

まずは、旭川観光大使が2～3分で自己紹介。その後、経済観光部・観光課の平島淳嗣主査から「旭川市の観光の現状と新たな取組」というテーマで詳しいプレゼンテーションをしていただきました（内容は左ページを）。実にわかりやすく、しかも問題点がはっきりしてきました。その後、各観光大使、東京旭川会の会員からも積極的な意見・提案が出されました。市の幹部からも回答があり、一方通行ではない懇談会が行われました。（詳細は4～5ページを）

出席の旭川観光大使（五十音順）

❶大使就任時期。出身。略歴など。旭川とのかかわりなど。❷現在。「観光大使」としての気持ちなど。

朝比奈康博　あさひな やすひろ

❶H18年就任。旭川東高出身。東京旭川会事務局長。懇談会の司会及び会報作成を担当。講談社広報室読書推進事業部長時代に「本と遊ぼう　全国訪問おはなし隊」が第55回菊池寛賞を受賞した。❷現在は、自宅住所など記載の観光大使名刺を活用し「旭川」をPR。「川のある駅・旭川」を全国に知らせたい。（旧姓・引地）

猪瀬英雄　いのせ ひでお

❶H7年就任。神奈川県鎌倉市出身。S59年から全日空旭川支店長。バーサーロペットジャパンにおける来賓の送迎手配など、多国間の交流にも尽力。H15年から北海道国際航空（エアドゥ）4年間東京支店長を。❷現在は、全日空社友会理事。今春発行の全日空社友会会報に、新しい旭川駅を中心に「旭川」を書く予定。

大竹龍雄　おおたけ たつお

❶H7年就任。東京都出身。かつて日産グループの労働組合である日産労連で青年婦人対策部門を統括していた時、S63年より10年間、全国の日産グループから団体スキー客を呼び込む「旭川スキーツアー」を企画したことから観光大使を頼まれた。❷現在もエルダークラブの仲間と毎夏、旭川でゴルフ会をやっております。

岡崎友典　おかざき とものり

❶H15年就任。島根県出身。松江観光大使でもある。地域教育社会学が専門の放送大学教授。H7年から10年間、旭川で放送大学のテレビ番組を制作していた。❷世界を動く時は、観光大使の名刺はきれいで大変評判がいい。もちろん国内でもこれからも「旭川の良さ」を伝えたい。

奥山コーシン　おくやま こーしん

❶H14年就任。旭川東高出身。『シャボン玉ホリデー』『8時だヨ！全員集合』『オールナイトフジ』などの超有名番組を多数制作。日本放送作家協会理事。❷旭川FMりべーるの番組『コーシンのいっしょうけんめい！』（日曜日放送）に出演。北海道の情報誌「fit」に「コーシンのこんな話で良かったら」を連載中。

清水曙美　しみず あけみ

❶H13年就任。旭川北高出身。S56年東芝日曜劇場でデビューの脚本家。日曜ドラマスペシャル『光抱く友よ』でH18年文化庁芸術祭ドラマの部最優秀賞・民放連テレビドラマ番組優秀賞のダブル受賞。日本脚本家連盟理事。❷ドラマで意識して旭川の名前を出すようにしている。これを機会に大使役を一生懸命やります。

武内英二　たけうち えいぞう

❶H7年就任。元・中小企業金融公庫旭川支店長。市から旭川市を全国的にPRするための方法を相談されて、「さつま大使」を例に提案。「旭川観光大使」第1期生。❷観光大使の名刺の裏に会社の肩書を入れて使っていた。名刺発行枚数では一番かも。中国では、「観光大使」は喜ばれた記憶がある。今後もお役に立ちたい。

西谷内力世　にしやうち りきよ

❶H11年就任。旭川北高出身。元・東京海上札幌支店長。現在も保険会社の役員。旭川出身の経済人の一人として推薦された。❷最近は「旭山動物園」で「旭川」が有名になったので、名刺を出しても説明が楽になった。横浜市の地元自治会でも「旭川観光大使」の名刺を使い、広告、提灯などで「旭川」を売り込んでいる。

松原愛　まつばら あい

❶H11年就任。旭川生まれ、2歳まで旭川に。本名は北海道の道をとって「道子」。女優・歌手・プロダクション経営。『オール日大』の司会の時、かつての東京旭川会会長の八木さんから勧められ、「東京旭川会」に入会。幹事として懇親会司会を担当。❷4月発表の新曲『ふたりの時計』及び『東京枯れすき』で頑張ります。

水奈月順子　みなづき じゅんこ

❶H10年就任。歌手。名寄市生まれ、実家は旭川市神楽にある。北海道倶楽部入会後、東京旭川会に入会。その後、旭川観光大使に。❷『海峡夢ごよみ』『夢ふたり花』『夫婦花道』が現在の歌。全国ネット、スカパーチャンネル267ch「お好み歌謡館」にレギュラー出演中。お世話になっている旭川のことをこれからも宣伝します。

柳ジュン　やなぎ じゅん

❶H8年就任。宮城県出身。東芝さんの後援で「旭川冬まつり」で歌うチャンスがあった。『夢さりぬ街』で旭川を歌い、特急ライラックを歌った『ライラックトレイン』を歌ってから旭川観光大使を頼まれた。❷このような会に出席できてとても嬉しい。応援していただいた旭川の方へ、これからも歌で恩返しをしたい。

吉田義勝　よしだ よしかつ

❶H8年就任。旭川商業高校出身。日大時代に、東京オリンピックのフリースタイルレスリング・フライ級で金メダル獲得。明治乳業で役員。日本レスリング協会理事。❷旭川は金メダリストを一番出している町。全国各地の講演でもきれいな観光大使の名刺を題材にしてPR。地元旭川にいろいろな形で恩返しをしたい。

旭川市の観光の現状と新たな取組

旭川市 経済観光部観光課
主査 平島淳嗣

新たな取り組み～ サイクリングツアー

- 環境問題への関心の高まり→世界的にサイクリングブーム
- 特に台湾では空前のブーム
- 旭川は盆地→どちらに向かっても「上り→温泉→下り」のコースが可能
- 美瑛、層雲峡、旭岳などの優れた景観を楽しむことができる

台湾GIANT社の下見ツアーを誘致
Cycling Mapを制作

新たな取り組み～ 地域商品券ワッカ

旭山動物園を訪れる観光客を中心市街地に

- 「ワッカ」はアイヌ語で「水」・5,000円分を4,500円で販売→10%のプレミアム
- 市内の飲食店、タクシー、空港の売店、スイーツなどで利用可能
- 観光施設の入場料の割引サービスも
- 観光客がどこでお金を使うのか分析する計画
- H22年度は3,000万円分（6,000セット）販売予定

新たな取り組み～ 北海道ガーデン街道

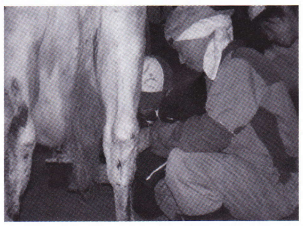
- ガーデニングの定着　・北海道の観光資源である「花」「自然」を堪能
- 「上野ファーム」「風のガーデン」など旭川～帯広の7つのガーデンが連携
- 7つのうちの4つの施設をめぐるチケットを発売
- 街道沿いには体験型アクティブティやご当地グルメも点在
- JAL、ANAなどと連携し、大手旅行代理店でも多くの商品が造成されている
- 旭川の新駅舎の裏にも新たなガーデンが誕生予定

旭川～帯広間を結ぶ新たな観光ルートの構築に期待

新たな取り組み～ グリーンツーリズム

多様で豊富な農業資源を活用した体験型観光

- グリーン・ツーリズム資金融資制度→直売所、農家レストラン整備を支援
- グリーン・ツーリズム施設認定制度→市街化調整区域での施設設備が容易に
- 農家民宿マニュアルの作成
- 直売所、農業体験施設などを紹介するマップの制作
- 農村体験ソフト開発事業→農村体験を生かした旅行商品の開発



修学旅行の受け入れなど成果

新たな取り組み～ 着地型観光の推進

旭川観光協会が第3種旅行業を取得

- 地元ならではの観光コースの提案　・地域資源の有効活用
- 新たな観光資源の開発　・多様化する旅行のニーズに対応
- コンベンションとの連動

オプショナルツアーの積極的展開

- 旭山動物園と食・陶芸制作体験・開拓そして歴史巡り"坂の上の雲"を訪ねて
- 北海道最高峰"旭岳"散策と美瑛の丘巡り・神秘の地、神居古潭と陶芸制作体験

新たな取り組み～ 外国人観光客おもてなし事業

- 外国人観光客のホスピタリティ向上を目指す取り組みを支援
- メニューやパンフレット、ホームページの外国語対応など

外国人観光客の個人旅行の増加に向け効果が期待

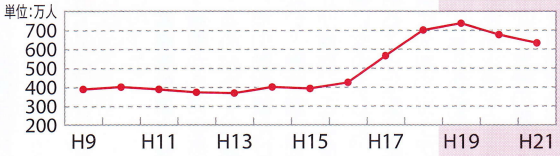
新たな取り組み～ チャーター便誘致

- 経済成長著しい中国本土からの観光客の誘致
- 観光ビザの緩和もあり、観光需要が莫大に増加
- 「北海道」は中国人の憧れの地　・「足」の確保は最優先課題
- トップセールスを展開するなど積極的な誘致活動
- ラバトリー対応などの支援を実施

上海～旭川で週2便、定期チャーター便が運行
中国から道内空港としては最大の運行規模

旭川観光の現状 観光客入込客数

H21観光入込客数：6,365,200人（全道第3位）



1位：札幌
2位：小樽
3位：旭川
4位：千歳
5位：函館

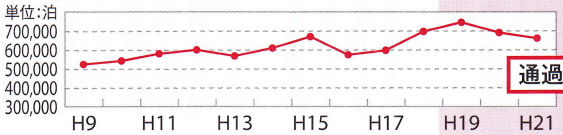
旭川観光の現状 旭山動物園入園者数

H21入園者数：2,463,274人

旭川観光の現状 宿泊延数

H21宿泊延数：660,200泊

宿泊延数／観光入込客数=0.10
札幌：0.75　函館：0.88

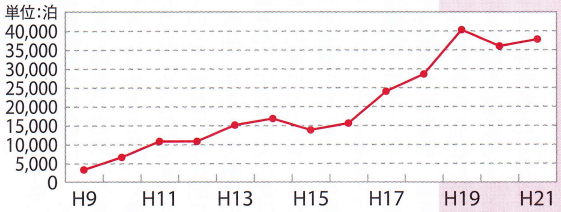


通過型が顕著

旭川観光の現状 外国人宿泊数

H21外国人宿泊延数：37,911泊（全宿泊延数の5.7%）

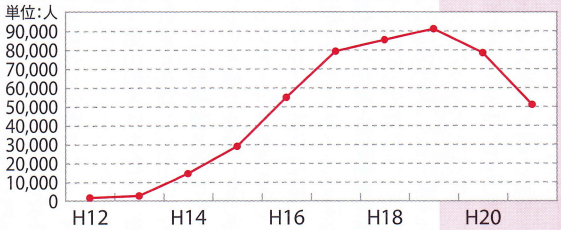
香港：13,181泊　台湾：6,471泊　シンガポール：6,018泊　中国：3,144泊
来訪月は7月がピーク、年間を通じて安定した宿泊数



旭川観光の現状 国際線乗降客数

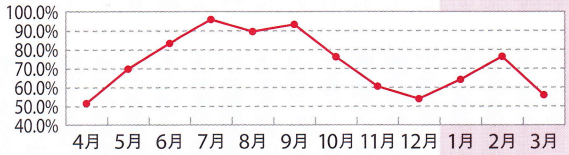
H21国際線乗降客数：51,190人（全観光入込数の0.8%）

H22中国上海、北京からのチャーター便が大幅増加　4月～9月で既に40,953人



旭川観光の現状 月別ホテル稼働率

夏季は稼働率が高く、冬季は低い



旭川観光の現状 まとめと課題

平成19年をピークに様々な数値が低下傾向
H20リーマンショックの影響？動物園人気の陰り？

通過型観光からの脱却が成されていない
旭山動物園への札幌からの日帰り旅行が増加

外国人観光客の来訪は堅調
中国本土からの今後の伸びが期待される

夏季と冬季の宿泊数の較差が大きい
夏季はキャパシティが限界に近い。冬季の魅力創造が鍵

［お断り］皆さまには丁寧にご発言いただいておりますが、紙面の都合上、省略を含め、表現上シンプルにせざるを得ない部分があります。ご了承ください。

《プレゼンテーションを受けて》

司会（朝比奈）：とても分かりやすいプレゼンでした。問題は、通過型の現状をどうするのか、泊ってもらうための方策をどう考えるかが、とりあえずのテーマですね。

猪瀬英雄：個人客に泊ってもらう「魅力」をどう見つけるのか。旭川は大自然の中で内容は充実しているのだから、知恵を出せばまだまだチャンスはある。日帰りの観光客に街を知ってもらうこと、街の人とふれあってもらい、旭川に来てよかったなと思ってもらうことが一番大事なことだと思う。

西谷内力世：滞在型のプランをどう作って、どう繋げるかが重要と思います。成功した「食べマルシェ」（注・7ページに記事あり）も含めてお答えください。

「食べマルシェ」は大成功！そこで学んだ「魅力の再発見」を「観光」に応用したい。

高瀬善朗副市長：通過型から滞在型にするのが最大の課題。旭山動物園だけでは滞在型にはならない。動物園と何をどうリンクさせるかが重要。この度、旭川の新駅舎が高架になりました。一級河川がすぐ裏にあるような駅は全国的にも珍しい。駅裏に大池やガーデニングも作れることで、「第二の動物園」になりうる可能性もあると見ている。いかに上手に繋げるかが今後の勝負。「食べマルシェ」は3日間で79万2000人という大変な来場者があった。道北ほか各地からの出店も多かった。旭川では初めての来客数でした。

奥山コーシン：「食べマルシェ」は「FMりべーる」でも生放送で取り上げましたが本当にすごかった。雨の日でも歩けないくらいで、たいていの店が初日に売れ切れていましたものね。姉妹都市の南さつま市のミカンは初日で4トンが売れ切れてしまっていた。この「食べマルシェ」は、次回もやればうまく行くのではないでしょうか。

高瀬副市長：とにかくよく売れていましたが、すべてが新製品ではありません。ふだん店頭に並んでいたものでも、やり方次第売れていました。お陰様で、やればできるんだと、市民のモチベーションが上がってきた。今後どう続けてゆくかを考えたい。

奥山コーシン：番組作りでも、安定とマンネリは紙一重で、よく「手を変え、品を変え」というのですが、やはり「ここにあるよ」と声をかけることが大事だなと感じました。

高瀬副市長：今回「食」でそれを学びました。それこそ「手を変え、品を変え」で、あるいは「魅力の再発見」という考え方でやれば、「自然の世界」でも応用できるかもしれないと学ばせていただきました。

奥山コーシン：確かに「手を変え、品を変え」より「魅力の再発見」の方が、今回の「観光」のテーマに合いますね。これからは「魅力の再発見」でいきましょう。（笑い）

立花謙二経済観光部長：平成21年のデータで、年間10万人以上の入場者のあるものをあげてみます。

1. 旭山動物園：246万人
2. サンタプレゼントパーク：85万人
3. 「旭川ラーメン」：48万人
4. 科学館「サイパル」：26万人
5. 北海道伝統美術工芸村：16万人
6. 男山酒造り資料館：11万人

もちろん、これらの底上げが必要ですが、「食べマルシェ」は、3日間で79万人ですので、「食」の可能性は今後も追及していきたい。

個人客を満足させてくれるホテルを

松原愛：旭川市内のホテルは大きく立派だが、個人旅行者、特に女性にとって、料理のおいしい、魅力的なプチっぽいホテルがない。あるいは、部屋に露天風呂があるとなおいいのだけど。旭川には、そういう宿泊の魅力が足りていないので、つい他の町へ行ってしまうお客さんも多いのではないでしょうか。個人旅行者を満足させてくれるようなホテルを考えていただきたい。

岡崎友典：関連してですが、市内だけではなく層雲峡を含めた上川支庁周辺エリアに泊ってもらってもいいのではないか。2～3泊して動物園のほかに旭川市内にあるいい施設を見て欲しいのですが…。とにかく、課題は、団体で来てくれた客にもう1回グループか、個人で来てもらう企画をどう考え、どう伝えるかだと思います。

平島淳嗣主査：道内での宿泊率は、札幌の75％、函館の88％を除けば、どこもほぼ同じです。結局、宿泊率を高めるには、観光客に日中どうやって時間を使ってもらうか、夜に何を提供するかにかかっている。層雲峡の夜間ローブウエイで、漆黒の闇の中で満天の星を見せる企画をやって好評だった。そういう「驚き」の提供が大事。これは、天人峡及び大望遠鏡のある市内の科学館「サイパル」でも応用できます。

立花部長：市単位で見るのか、広域で考えるかという問題でもある。周辺地域の富良野・美瑛・稚内などとは、広域的にトータルに観光客を増やしていこうと、しっかり手を組んで集客にあたっています。

また、動物園はピークの307万人の時は、1～2時間お待たせし、満足度は低かった。ホテルも目いっぱいだった。昨年の246万人は、お待たせずに運営的にもうまく回るちょうどいいくらいのレベルとなった。満足度をきちんとすることは重要です。

また、これからは、イベント効果も見直していかねばならない。冬まつりは94万人、先ほどの「食べマルシェ」と合わせて、イベントの効果はあるが、民間が中心になって市が応援するスタイルがイベントを長続きさせる方法ではないかと考えているところです。

『旭川観光応援隊』を創ってはどうか

吉田義勝：動物園の集客をどう活かしていくか、観光課もよく考えられて、努力していると思います。それとは別に、市の中心部の「買物公園通り」にどう活気を取り戻すかは、本当に重要です。それには、費用対効果を考えずに言いますと、格安の公共の常設駐車場を設けることがかなり大事と思います。ぜひご検討ください。また、先ほど松原さんも言っておられましたが、「いいホテルだったね」「泊まってよかったね」と言われるようなホテルが欲しい。いろいろなアイディアが必要ですね。

また、旭川の人はもともと謙虚なのかもしれませんが、「旭川はだめなんだよなー」と、結構後ろ向きのことを言う人が多いと感じます。もう少しモチベーションを上げてもらえるとありがたいのですが…。旭川には、こんなにいい所がたくさんあるのですから、自分たちの郷土のことは自信を持って語れるようになって欲しいと思います。そのために例えば、『旭川観光応援隊』というようなタイトルで幅広く「隊員募集」してはどうでしょうか。名刺や必要なグッズを持ってもらい、外に向かって（ボランティアで）PR役、ガイド役もやってもらえるような人はいるはずです。気持ちと時間に余裕のある人は必ずいるはずです。

司会（朝比奈）：とてもいいお考えだと思います。市は、ぜひご検討ください。

原公朗東京旭川会会長：松原さんの意見は質の向上という意味で貴重。質を向上させようと思ったら、民間が率先しないと活性化しません。また、モチベーションの問題でも、市民の中からなにか具体的なものが出てこないと活性化しません。そういう意味でも、民間の立場から観光協会会長として旭川の魅力をどう考えられているかをお聞かせいただきたい。

山崎博幸旭川観光協会会長：今日は観光大使の皆様のお話を聞かせていただき、自分のモチベーションが上がっています。旭川が有名になったのは、旭山動物園のおかげです。10年前は、人口35万人の旭川が5万人の富良野の隣と言われていた訳です。ですから、モチベーションの話が出ていますが、市民の認識がどうなっているかが問題です。タクシーの運転手に「どこかいい所がないですか」と聞くと、「旭川は昔から何にもないからね～」という答えが返ってきます。京都では、タクシーの運転手も市民もよく教育されているので、けしてそんな答えは返ってきません。そこまでは望みませんが、「旭川の観光を考える会」という会もできましたので、この際旭川市も議員も市民も、全体が意識改革をしなければいけない時なのかもしれません。旭川に転勤してきた人が、旭川の春夏秋冬の良さを認識して、東京の家を売り払って移ってくる人もたくさんいる。そういうことも含めて、市民に「旭川の良さ」を改めてわかってもらうように伝えることが重要だと思います。

また、例えば、「冬まつり」は90万人入っても、本当の魅力を伝えきれていないのではないでしょうか。「雪明かり」「雪像」「氷彫刻」と実行委員会があるが、

場所もそれぞれで、来たお客さんにせっかくの素晴らしい作品・財産をまとめて見せられていない。お客さんに感動を与えてはじめて、リピーターにつながる。今後は、市と相談しながらより工夫していかなければならない。まとまって見せる方法、実施日数を増やすこと、夜型も取り入れることなどの工夫や検討が必要なのかもしれません。動物園の入場者は200～220万人くらいがちょうどいいことは分かっていますが、このまま右肩下がりになるのが怖い。一度来てもらった人にどうやってリピーターになって戻ってきてもらうか、いろいろやっていかなければならない。

ガーデニングについては、これから大事な分野。ガーデニング街道7つのうち帯広に5つあり、いまの所、旭川は上野ガーデンさんだけですが、旭川駅の裏側にあたる場所に感動を与えられるガーデニングを作ろうとしている。大雪山連峰が正面に見られる新しい駅舎と忠別川とガーデニングがうまく結びつけば全国どこにもない「駅」ができあがることになる。まだまだ、旭川には魅力ある所がたくさんあります。

大竹龍雄：スキー客はどうですか。

立花部長：残念ながら、スキー・スノボーを含めてウインタースポーツ客の絶対数は減少傾向にあります。ただし、東南アジア・オーストラリアなどからの客はふえつつある。全道的にも傾向は同じです。

旭川の市民がお客様を気持ちよくお迎えし、「旭川っていい町だよ」と言われることの方がよほど価値のあることなのではないか。

武内英三：「第二の動物園」やイベントも結構だとは思うのですが、もっと地味なところで意識改革をやって行くことが大事だと思います。最近しばらくぶりに旭川に行ってびっくりしました。街に緑がない、殺風景な感じがしました。こんな町に、観光客が来るか?と感じた。「買物公園通り」には昔立派な「ななかまど」の大きな樹があったはずですが、全部切られてしまった。聞くところによると、落ち葉を誰が掃除する、誰がお金を払うというところから、面倒だと全部切られ、緑のないコンクリートの、実にそっけない街になってしまっていた。先ほど吉田さんが言っておられましたが、旭川の市民が観光客を、お客様を気持ちよく迎え入れているのか、喜んで帰っていただけているかを問いかけてみたい。みんなでお客様をお迎えして、10年先にも20年先にも30年たっても「旭川っていい町だよ」と言われる方が、よほど価値があるのではないでしょうか。地味かもしれませんが、旭川全体がそういう気持ちになってくれることの方が、また長丁場でものを考える方が、観光振興という意味でも長続きするような気がします。消極的な意見かもしれませんが、そんな風に思います。

司会（朝比奈）：とても大事な考え方だと思います。皆さんいかがでしょうか。

清水曙美：東京の百貨店で「北海道物産展」をやると一番客が集まる。その中でも函館から来た売り子さんの威勢がいい。威勢がいいと、つい買ってしまう。それと同じで、武内さんのご意見と重複しているかもしれませんが、旭川の市民が元気になってくれないと、そこから湧き上がるものが出てこないと、結局人を呼べない、文化も呼べないのではないでしょうか。私たちがやっているお芝居や劇団民藝などもいつも札幌止まりで、旭川まではなかなか行かない。いつも旭川の人にも生のいい舞台を見せてあげたいと思っていますが、なかなかそうはなっていないのが現実です。旭川市民が元気になることが、周りのお客さんを呼ぶことになるのではないかと私は思います。

原公朗東京旭川会会長：旭川西高出身で、ニコンの社長・会長をやっておられた嶋村さんからのお話を代弁したい。ここに、旭川出身の山下敬吾さんが、31歳の若さで囲碁の最高位である「本因坊」に就位され、号を「道吾（どうわ）」とされたという記事があります。また、旭川市出身の小林光一九段は、棋聖連覇8期、名人連覇7期で、タイトル獲得数が歴代3位の59という記録をお持ちです。もちろんお二人とも旭川観光大使をされています。このように、旭川市は囲碁界の大スターを二人も持っています。それは、旭川の大きな財産と考えてもいい。また、建築家の私の目から旭川市の中心街を見ると、「碁盤の目」になっているので説明しやすい。旭川は「囲碁のまち」と言ってもいいくらいに地盤ができている。この二つを合わせて、旭川市は「囲碁のまち」としてもっと売り出してもいいのではないでしょうか。参考までに、神奈川県平塚市は、15年ほど前から実施している「湘南ひらつか囲碁まつり」に、毎年全国から6500人の参加があるようです。

10月10日、実際に行って話題の「1000面打ち大会」なども見てきましたが、小学生から高齢者までいて、実ににぎやかでした。嶋村さんからも、平塚に負けないように、旭川市はもっと本腰を入れて「囲碁のまち」を売り出して欲しいと言われていますので、代弁して申し上げます。

山崎観光協会会長：山下本因坊、小林九段も子どものころから市内の「山岡囲碁サロン」で育ってきている。先生もまだ元気に指導されています。有名棋士を二人も輩出していることは、私たちの宝であり、私たちが自慢していいことです。

司会（朝比奈康博）：ここで東京旭川会会員の方にもご発言をいただきたいと思います。

原卓徳（会員）：私も旭川出身なので、旭川は大好きです。皆さんも言っておられましたが、メインの買物公園通りに緑がなく、活気もなく、とても心配です。みんなで頑張って活気を取り戻してほしいと思います。

旭川駅前に「啄木歌碑」を建てませんか

近藤典彦（会員・前国際啄木学会会長）：いい機会ですので、何か旭川の観光に役立つアイディアのひとつをと思って提案します。

2010年は石川啄木の不朽の名作と言われる『一握の砂』が刊行されて100年の年です。その中で旭川を詠んだ歌が4首もあります。旭川駅前か買物公園通りにその4首の歌碑を建てれば素晴らしい観光スポットになりうると思います。啄木の歌が詠まれていて歌碑のない町は、実は旭川だけです。昨年9月に高知市に立派な歌碑ができましたが、啄木とは無縁の土地です。啄木の父が、高知で亡くなったというだけの縁で、父と啄木の歌が並んだ歌碑ができました。建碑運動が始まったのは2009年5月、始めたのは地元の啄木を愛する有志の人々。2か月の間に県の内外から多額の資金が集まり、9月には素晴らしい碑が高知駅前に建って、今や素晴らしい観光スポットになっています。高知市は駅前の土地を提供しただけで、完成後はその歌碑は市に寄贈されています。私も頼まれて記念講演をしてきました。旭川は4首も詠まれているのですから、作らないのはもったいないと思います。ぜひ旭川の皆さんにご検討いただければと思います。（その後、提案書が立花経済観光部長に手渡されました）

司会（朝比奈）：具体的なご提案をありがとうございました。啄木が26歳で亡くなったのは、1912年ですので、2012年4月13日が没後100年となります。また、2011年1月から始まった三谷幸喜作のロングラン芝居『ろくでなし啄木』は完売の大人気です。「没後100年」でまた大きなブームが来ることも考えられますね。

小林良正（会員）：高校まで旭川。今回初参加です。現在PR会社を経営しています。今までのPRの経験から、個人旅行に向けては感動＋サプライズが重要。今ある素材を有効活用させて、なるべく費用をかけずにプロモーションできる方法を考えるべきで、冬の宿泊客を増やすには夜のアクティビティをどう考えるかが勝負だと思う。

山崎摩耶（会員・衆議院議員）：「健康」と「観光」をつなぐ旭川らしいプロジェクトができるといいですね。1泊2日の健康ツーリズム、外国人向けの医療ツーリズムなど旭川の豊富な医療資源を生かしたものをぜひお考えいただきたい。

司会（朝比奈）：長時間にわたり、貴重なご意見をありがとうございました。ぜひ旭川へお持ち帰りいただき、これを機会に一つでも二つでも実現できれば最高です。やはりこういう形で、顔を合わせて話をする、そこからすべては生まれると思います。今回は東京旭川会が主催で東京開催でしたが、逆があってもいいのではないでしょうか。そのような交流が今後も大事だと思います。

佐々木卓也市議会副議長：旭川は自然が素晴らしい。昨年からサケの稚魚を50万匹忠別川に放流しています。海から150㎞も離れている所に、3年後には3%の比率で戻ってくるはず。そういうことも旭川の自然の良さとして観光にも役立てたい。今日皆さんからいただいた力強いご意見を参考にさせていただき、旭川の発展のために頑張りたい。ありがとうございました。

第23回 郷土訪問の旅

＊本年度第24回郷土訪問の旅は、9月8日(木)出発の予定です。改めてご案内いたします。

旭川会副会長　加藤桂子

第23回郷土訪問旅行は平成22年9月2日から行われました。例年午前出発、お昼に到着のスケジュールで取り組んでおりましたところ、エア・ドゥ社の時刻変更により出発時刻が若干遅くなってしまいました。その上機材繰りの関係で羽田空港にて足止めとなり予定時刻よりかなり遅れての旭川入りとなりました。出迎えてくださった市の方々をお待たせしてしまい、のみならず昼食をとお待ちくださった西川市長さんとは会食が出来ず、記念撮影のみとなり、申し訳ない事態となりました。「大雪の蔵」で遅い昼食を済ませ、市の観光課の方と10月に開催予定の総会・懇親会に先立って行われる懇談会について短い時間ではありましたが打ち合わせを行いました。

昼食後は希望者のみにて「旭川兵村記念館」へ向かいました。此処は昭和36年8月、東旭川町開基70周年を記念して旭川神社境内の若宮八幡宮拝殿に郷土資料を展示して発足したものだそうです。旭川市は今年開村120年の記念の年で、今日の繁栄に至る迄を館長さんの熱のこもった懇切丁寧な解説により知ることができました。旭川の歴史を知る良い機会となりました。皆様にもお薦めの場所です。

見学の後のお楽しみはお買い物と相場は決まっております。例年立ち寄るウエスタンパワーズ店では道産品の発送をお願いしたり、お土産を買いこんだり、ラーメンを物色したりと思い思いの時を過ごしました。

夜は有志による懇談会をこじんまりとした居酒屋にて行い、旧交を温め語り合いました。

9月3日、旭川会幹部数名にて関係各所へ表敬訪問を行いました。市役所、市議会、旭川商工会議所、旭川観光協会を始め、協賛企業、ホテルへ伺い、ご挨拶させていただきました。意見交換を行い、次年度に向けての更なるご支援・ご協力をお願いして日程を終了。

次回、会員の皆様がより参加しやすくしたいと考え、早い段階での日程発表（現在平成23年9月8日出発で調整中）に踏み切りました。ご参加を心よりお待ち申し上げます。

最後になりましたが、旭川市開村120年記念事業の行事が目白押しの時期に、我々一行のため、様々ご配慮下さった関係各所、皆々様に深く感謝申し上げます。

＊＊＊

初参加の感想　会員　尾崎嘉子

今回初めて「郷土訪問の旅」に参加させて頂きました。送られてきたスケジュールをみると比較的自由なプランで帰郷にはぴったりでした。

旭川空港に到着してからは、ゆったりと大型バスでの移動で、懐かしいゴードー酒精近くの「大雪の蔵」で、美しい景色を眺めながら会席料理を頂きました。

次に、兵村記念館に到着。旭川神社の玉砂利をザクザクと踏みしめながら鳥居をくぐると資料館で、ボランティアのガイドさんの開拓の歴史を聞きながら、しばし「兵村百二十年の歴史」に思いを馳せました。

次に、ウェスタンパワーズでは、北海道物産を見て歩き、いくつかお土産を買いました。

会員の皆さんと観光後は、旭川の姉に会い、今度は東京旭川会総会に参加して東京に住む親せきに会うのもいいね、と話しました。楽しいひと時、ありがとうございました。

第22回 郷土訪問の旅

旭川会幹事　山原正博

第22回郷土訪問旅行は平成21年9月3日に出発しました。恒例の市長を囲んでの昼食会後、旭山動物園へ向かいました。同園内に記念植樹を行うためです。旭川会では過去に記念植樹の経験があります。第1回目のそれは10年ほど前、当時開館したばかりの大雪アリーナ前庭に「櫟イチイ」の苗木を植えました。今回は園内「やすらぎの森」に「ハルニレ」の高木を参加者一同で、大きく育って欲しいと願いを込めながら植えました。何時の日か記念樹を巡ってみたいものです。

夜は希望者による懇談会が催されました。例年参加くださる旭川市東京事務所関係者の他、市内各高校同窓会、協賛企業の方々にも声掛けを致し、大変賑やかなものとなりました。ここに厚く御礼申し上げる次第です。

翌9月4日、市役所を始め、関係各所へ表敬訪問を行い、解散となりました。

元副会長 武田陽子さん逝去される

武田陽子さんは東京旭川会が発足して間もない昭和五六年から幹事、平成十一年から副会長、平成二一年から顧問として旭川会の発展に多大な功績を残され、平成二三年九月に逝去されました。

武田さんは総会前の段取り、司会、受付等全般にわたって大変な活躍をされるとともに、後輩には良き先輩としてご指導いただくなど旭川会の礎を築かれた偉大な方でした。

司会も抜群でしたが、総会の協賛品を提供いただいた会社に地元羽田の焼のりを自前で用意してお礼としてお配りするなど義理、人情の深い方でもありました。

昭和六十年八月の郷土訪問旅行はホテルに到着早々、武田さんの特訓を受けロータリーから駅まで旭川音頭の踊りに参加、終了後、夏とは思えない寒さの中でビールをブルブル震えながら飲んだこと、翌年の帰りは台風で大変だったことなど、楽しい思い出と共に武田さんのことが思い出されます。

また、東京湖月流の先生で毎年、椿山荘で茶会を開かれていたこともあって、旭川会の総会には着物姿で出席され、艶やかな雰囲気を醸し出していただいておりましたが、今はもうお目にかかれません。

大きな功績とお人柄に深く敬意を表し、心よりご冥福をお祈り申し上げ追悼のお言葉といたします。

（武田さんと親しかった方に話を伺って記載　副会長　横田　茂）

（中央が故・武田陽子さん）

川のある駅 ●●● 旭川

朝日新聞（10月26日付け夕刊）の「窓」（論説委員室から）で、辻篤子論説委員が「川のある駅」という素敵なコラムを書かれている。それによると、「北海道のJR旭川駅が新しくなった。ホームをぐっと13㍍持ち上げて高架にし、さらに南側に70㍍動かした。駅の南を流れる忠別川と一体になった《川のある駅》にするためだ」。

これを読んだだけで、私たち旭川に生まれ育った者には、地形が分かるだけに心がワクワクする。実に楽しみだ。

今年の秋に古い駅舎がなくなれば、1階のコンコース部分はガラス張りになり、北口側の買物公園通りからも河岸が見通せるという。広大な駅前広場が現れるという。そして駅のすぐ裏の緑豊かな忠別川が結びつく。このような駅と川の豊かな自然とが調和した駅は、全国でも珍しい。いよいよ旭川駅が「緑があふれ、人々が集える場所」になる。最高だ。駅舎には、地元のタモ材が使われている。エスカレーターに乗ると、まるでどこかのコンサートホールに向かって行くような感覚になるという。

「駅の再生なくして町の再生はない」が持論の建築家の内藤廣さんが、15年がかりで旭川駅に取り組んだ。駅は、旅してきた人が町と出会い、住む人が帰り、また別れの場所となる。駅は、記憶をつむぎ、人をつなぐ場所なのだという。

記事では、「世界に誇れる駅」が町をどう変えるか、とても楽しみだ、と結んでいる。

旭川市開村120年 ●●●

昨年は、明治23年（1890年）の9月20日に旭川・神居・永山の3村が置かれてから120年。また、旭川市が市制を施行してから88年に当たり、「米寿」を迎えた年でもありました。

開村120年を記念して、昨年10月9日から11日の3日間、市内の中心市街地に、旭川市及び道北各地域の味覚・農・海産物を一堂に集めた巨大市場を出現させるとともに、旭川市と様々な交流がある国内外の各都市・各地域も参加して、各地の味覚や名産品の紹介、豊作を祝う地域芸能の披露など「食」をテーマとした一大イベント『北の恵み　食べマルシェ』が実施されました。

買い物公園会場
- ふるさと物産味覚市場
- 味わいの広場
- スウィーツ・芸術の広場

常盤公園会場
- 世界「お米と食」の広場
- 大鍋・バーベキューの広場
- 食のライブステージ
- 「北のお米料理」コンテスト

期間中3日間の人出は予想をはるかに上回る79万2千人。晴れの日も雨の日も、身動きが取れないほどの盛況ぶりでした。市内のホテルはほぼ満室で、経済効果も31億円（市の計算発表）とのこと。

旭川市では、この度の大盛況を受けて、来年以降も規模を縮小しながら継続開催の方向で検討しているそうです。

市のシンボルキャラクターも選定され、旭川は開村120年を祝うイベントで大賑わいの一年でした。

編集後記

「東京旭川会」は昨年11月より新しい体制になりました。幹事の皆さんのご協力を得ながら、会員の皆様と共にますますいい会にしたいと考えております。何卒よろしくお願いいたします。また、重要な行事につきましては、会員の皆様にできるだけ参加していただきやすくするため、スケジュールを早めに決めるようにしました。本年の「郷土訪問の旅」は、9月8日（木）スタートとします。「総会・懇親会」は、お勤めの方も参加していただきやすいようにと、土曜日開催とします。10月22日（土）夕刻、いつものハイアットリージェンシー東京で決定しました。いずれも詳細は改めてご案内申し上げますが、ご予定いただければ幸いです。（原）

＊＊＊

「懇談会」は、2時間半びっしり、活発な議論となりました。中には発言できなかった方もいらっしゃるとのこと、大変失礼しました。その内容も会報の中でギュウギュウ詰めになって読みづらいと思いますが、できるだけ皆さんの発言を入れたいと思った結果です。お許しください。（朝比奈）

旭川のシンボルキャラクター
"あさっぴー"です。

東京旭川会の役員構成

■会長　原　公朗

■副会長　横田　茂
安井　規雄
加藤　桂子
吉田　義勝

■事務局長　朝比奈　康博

■副事務局長　海老澤　美智子
山原　正博
三井　尚美

■事務局　並河　典子
山川　智
小柳　弘子

■会計　野作　雅章
（兼）海老澤　美智子

■常任幹事　河原　惟臣
高橋　照美
高木　宏明

■幹事　伊塚　清
大場　孝仁
小柳　武二
佐竹　秀喜
長谷川　満
松原　愛
宮川　秀史
茂木　信昭
森山　広子
山崎　脩五
和田　睦夫

■監事　植木　宏昌
高橋　正夫

■顧問　竹原　茂雄

■相談役　大野　武夫

第34回　東京旭川会総会・懇親会 出席者一覧（順不同）

【ご来賓】

◆旭川商工会議所会頭……新谷　龍一郎様

◆旭川市議会副議長……佐々木　卓也様

◆旭川市副市長……髙瀬　善朗様

◆㈳旭川観光協会会長……山﨑　博幸様

◆旭川市総合政策部長……岡田　政勝様

◆旭川市経済観光部長……立花　謙二様

◆㈳旭川観光協会事務局長……越智　修一様

◆旭川市議会事務局議事課主査……酒井　睦元様

◆旭川市経済観光部観光課主査……平島　淳嗣様

◆旭川市総合政策部秘書課主査……松本　裕紀様

◆北海道新聞東京支社長……高橋　純二様

◆北海道ふるさと会連合会副会長……森　隆信様

◆北海道国際航空㈱東京支店長……木富　義仁様

◆男山㈱代表取締役社長……山崎　與吉様

◆サッポロビール㈱営業推進部長……手島　孝雄様

【出席者】※は旭川観光大使の方です。敬称略

あ
朝比奈　康博※
阿部　百合子
伊塚　清
猪瀬　英雄※
今井　昭吉
岩垂　由紀子
岩渕　清司
植木　宏昌
上田　結一
内澤　忠義
浦木　勲
海老澤　美智子
遠藤　哲
及川　茂
大岡　ノリ子
太田　明
大竹　龍雄※
大西　幸男
大場　孝仁
大屋　道夫
岡崎　友典※
奥山　コーシン※
奥山　好美

か
小柳　弘子
柏木　明
片桐　紀恵
加藤　桂子
加藤　文哉
金子　登
川西　勲
河原　惟臣
木嵜　秀夫
北村　武宏
工藤　琢哉
窪田　敬昭
熊野　勝文
河野　豊
小木田　寛治
小林　良正
小柳　武二
近藤　典彦
近野　光佑
斉藤　崇文
斉藤　千鶴子
坂井　弘子
櫻井　悠
佐竹　秀喜
佐藤　まゆみ
佐藤　美紀
島田　嘉明
清水　曙美※

た
高尾　榮二
高木　宏明
高橋　國二
高橋　照美
高橋　文子
武内　英三※
竹原　茂雄※
丹保　冬司夫
地徳　卓
綱島　正寛
徳田　光雄
飛澤　文
那須　利雄
並河　典子
西岡　康浩
西谷内　力世※
西村　明
野作　雅章
長谷川　明子
長谷川　満
畠山　博文
浜崎　泰子
原　公朗
原　卓徳
廣野　貴之
福田　淳一
船山　喜美子
堀田　康雄
堀　日出記
堀内　敏
牧田　紀子
増田　晴紀
松田　勇三
松原　愛※
水口　國雄
三井　尚美
水奈月　順子※
宮川　秀史
村上　和雄
茂木　信昭
森山　広子
谷内　日出夫
柳　ジュン※

や
山川　智
山崎　摩耶
山原　正博
横田　茂
吉崎　與一
吉田　義勝※
和田　睦夫

わ

【ご協賛・ご協力御礼】

旭川市長
旭川市議会
旭川商工会議所
㈳旭川観光協会
旭川市総合政策部
旭川市経済観光部
旭川市農政部
旭川市水道局
旭川空港ビル㈱
北海道国際航空㈱
旭川グランドホテル
旭川ターミナルホテル
ホテルクレッセント旭川
ロワジールホテル旭川
オエノンホールディングス㈱
男山㈱
サッポロビール㈱
ニッカウヰスキー㈱
今野醸造㈱
佐賀孝郎商店
㈱大心堂雷おこし
藤原製麺㈱東京支店
㈱旭川振興公社
㈱ササキ工芸
㈱旭ダンケ
北海道新聞東京支社
毎日新聞社
ハイアットリージェンシー東京

＊本年度第35回の総会・懇親会は、10月22日(土)午後6時からです。ご予定ください。8月に改めてご案内いたします。

新規会員を募集中!!　お友達、お知り合いの方で「東京旭川会」に関心のある方がいらっしゃいましたら、事務局までご連絡ください。会報『ななかまど』と入会ご案内をお送りします。